

令和2年度主催事業「ひこさんキャンプ」

- 開催日：令和2年10月4日(日)
- 開催場所：英彦山青年の家および英彦山周辺
- 参加者：8名
- 事業のねらい

野外調理や英彦山探検等の自然体験活動に取り組む機会を通して、自然のよさや自然体験活動の楽しさを経験させる。また、「鍛ほめ福岡メソッド」の考え方を取り入れた自然体験活動を通して、自分で目標をたて達成することのすばらしさを感じ取らせることで、子ども達の主体性や自尊感情を高める。

○活動の様子

活動1：火起こし体験

ファイヤースターターを使って自分の力だけで『野外調理で使う火』を起こすことを目標に取り組みました。

火種としてほぐした麻紐を、着火剤として杉の葉や枝を使うことで、キャンプをする際に身近にあるもので火起こしができることを体感してもらいました。

実際に取り組んでみると、ファイヤースターターから火花は出るものの、なかなか麻紐に火がつかず苦勞する様子がみられました。しかし、枝の置き方や空気の入れ方を工夫し、何度も繰り返しチャレンジすることで、全員が無事に調理で使う火を起こすことができました。



活動2：野外調理

自分で起こした火を使ってお米を炊いたり、ベーコンエッグを作ったりしました。

野外調理の難しさの一つが火の調節です。強すぎず、しかし弱くなりすぎないように杉の枝や薪を入れて火の調節をしていました。

作った量は少し多いかと思っていましたが、子ども達がお米1合、味噌汁、ベーコンエッグをペロリとたいらげてしまったのには、驚きました。食後は残った火でマッシュマロを焼き、クラッカーではさんだり、チョコレートと一緒に食べたりするなど、野外調理ならではのデザートを楽しんでいました。



【参加者の感想】

- なかなか火がつかなかったけど、最後は火をつけることができた。
- 一人で火起こしをして、料理を作ることががんばった。
- ベーコンエッグを上手に作ることができた。

【全体を通して】

今回のキャンプでは、鍛えて・ほめて・伸ばすという「鍛ほめ福岡メソッド」の考えを活用し、「自分で火起こしから野外調理までを全部する」という小学5年生には少し困難な課題で鍛え、やり遂げたことをほめ、子ども達の主体性や自尊感情を高めることを目標にしていました。

難しい課題だったため、途中諦めそうになっている場面もありましたが、一生懸命取り組んでいた子の中から成功する子が出てくると、励みとなり、自分も頑張るぞという気持ちが芽生えてきていました。そして、最後は全員が自分の力で課題を達成することができました。

1日の事業でしたが、子どもたちの諦めずに頑張る姿や、できた時の素敵な笑顔から、主体性や自尊感情の高まりを感じることができました。

今後も楽しいだけでなく、子ども達を鍛えて伸ばせるような事業を展開していきます。